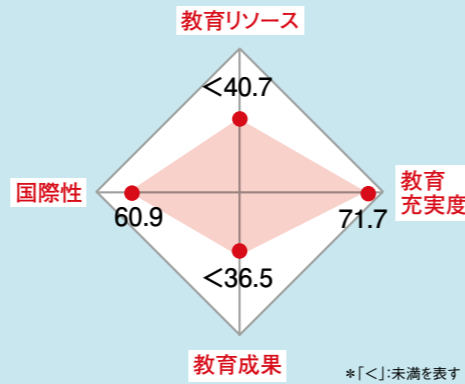




学生数/9424人 学群/リベラルアーツ、グローバル・コミュニケーション、
ビジネス・マネジメント、健康福祉、芸術文化
大学院/国際学、経営学、言語教育、心理学、
大学アドミニストレーション、老年学
●THE世界大学ランキング日本版2017/111-120位

THE世界大学ランキング日本版2018の結果

分野	スコア	順位	その他指標
総合	44.6-45.3	121-130位	外国人学生比率/4.2%
教育リソース	<40.7	-	日本人学生の留学比率/7.5%
教育充実度	71.7	72位	外国語で行われている講座の比率/1.3%
教育成果	<36.5	-	海外の大学との大学間交流協定数/141件
国際性	60.9	49位	



取り組み体制

- ▶改革の方向付けは総合企画部が行うが、ランキング対応の専門部署はない
- ▶方針に基づき、国際的な取り組みは国際センター、教育支援は学務部教務課など、必要に応じて各部署が担当

分野	重点度	取り組み	指標
教育リソース		<ul style="list-style-type: none"> ▶教員を本務(教育と研究と社会貢献)に集中させ、大学の運営は職員が担う教職協働の徹底 ▶研究は「グローバル教育の実践に還元できる」研究に集中 ▶建学の精神に沿った理数系教育や実学教育の強化 ▶科研費などの競争的資金獲得の努力 	SD研修の実施回数/教育研究費比率/志願者数/競争的資金申請数、採択数など
教育充実度	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶学群制での幅広い学びと、レイトスペシャリゼーションによる学びのモチベーション強化 ▶高大接続改革の取り組みとして高校生向けに「AO・推薦準備セミナー」を実施、レディネスの形成に向けた機会提供 ▶学内開催の高校教員向けのセミナーや研修会を通じて情報発信 	AL、SL、OR実施件数*1/産学官民の連携案件学生参加者数/学修環境整備の学生満足度など
教育成果		<ul style="list-style-type: none"> ▶サービス・ラーニング科目による実社会の体験的な理解と主体性の育成 ▶キャリア開発センターによる入学時点からの包括的なキャリア支援 ▶ボランティアやインターンシップの機会拡大 	国内外インターンシップ参加者数/卒業生向け事業の参加者数/eポートフォリオ導入など
国際性	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶5カ所の海外拠点を中心とした、オリジナル留学プログラムの開発・展開 ▶英語、中国語で開講する留学生向けの多彩な日本研究プログラムの拡充 ▶外国人教職員比率や外国語で教える授業科目比率の向上 ▶日本人学生と外国人学生混住型の国際寮での日常的な国際交流の促進 	英語による授業科目数/外国籍の学生や教職員比率/日本人学生の留学経験者数など

*1アクティブ・ラーニング、サービス・ラーニング、アウトリーチ活動

注目!

組織改革によるガバナンス強化で国際化戦略「REDEMPTION21」推進

改革を推進しやすくするため、2018年度から大学など各附属校に所属していた事務組織を桜美林学園の下に一元化し、全部門の情報共有を図ることになった。また、学長と副学長、学長補佐で構成していた「学長室会議」を、全学群長を加えた「拡大学長室会議」に切り換え、大学全体の経営と各学群の経営をすり合わせる体制を整えた。

大学運営に関しても、教員による委員会方式から事務職員が企画・運営する形式に変更。職員は自学の大学院・大学アドミニストレーション研究科で学ぶなどしてスキルアップを図っており、教職協働のレベルを上げていくことにも積極的に取り組んでいる。

「REDEMPTION21」

1. RESEARCH: 研究の国際化
2. EDUCATION: 教育の国際化
3. DIVERSITY: 多様性の推進
4. ENGLISH: 英語公用化
5. MOBILITY: 流動性の推進
6. PRACTICE: 海外実習、異文化実習の推進
7. TECHNOLOGY: 技術のグローバル対応
8. INTEGRITY: 国際化に向けた組織全体の統一
9. OPPORTUNITIES: 教職員や学生のための、多様な機会の創出
10. NETWORK: 外部機関とのネットワーク増強と協働

桜美林大学
「国際性」と「教育充実度」で高スコアの桜美林大学。
人種や地域を超えた国際化教育を提供すべく、学園全体で改革に取り組んでいる。



学長 畑山浩昭

はたやまひろあき ●桜美林大学文学部卒業 (B.A.)、ノースカロライナ大学シャーロット校大学院修士課程修了 (M.A.)、ノースカロライナ大学グリーンズボロ校大学院博士課程修了 (Ph.D.)、マサチューセッツ工科大学大学院修士課程修了 (M.B.A.)。2006年に桜美林大学教授となり、その後、学長補佐、基盤教育院長、国際センター長、副学長を経て、2018年4月より現職。専門はレトリック学。

ミッションに基づく特色ある国際化教育
価値観を共有し、数値目標を掲げ改革推進

ランキングでわかる
高校教員の本音

日本には780もの大学がありますが、これまでは「偏差値」「教育学力の努力の証」しか大学を選ぶ基準がありませんでした。THE世界大学ランキング日本版(以下、日本版)は教育力の観点から各大学の特色を調べ、整理しているため、高校生や保護者にとって、利用価値が高いと言えます。特に保護者にとってはわが子を預ける大学の特色がより明確に把握できるようになるでしょう。

大学にもメリットがあります。従来、大学からの情報発信は一方通行で、受験生や高校側の本音はわかりませんでした。日本版なら高校教員の本音にアクセスできます。今回、その評価が高かったことが最も喜ばしいことでした。大学の源流は、1921年に

中国で設立された学校にあり、そこでは人種や地域を超えたコミュニケーションでの学びが実践されてきました。その当時創立者が考えたことを100年後の今やとめたのが国際化戦略「REDEMPTION21」です(左ページ参照)。英語による授業科目数、留学経験者数、留学生や外国人教職員の数など、具体的な数値目標を掲げて取り組んでいます。数値目標を設定したのは、達成までの道筋をつけ、取り組みの進捗をレビューするともに、皆でがんばるという覚悟を持つためです。指標の多くは日本版のそれと重なるので、結果的に国際性が高く評価されたのでしょう。

量的な施策だけではなく、質の保証も重要です。例えば日本人学生の海外派遣。アメリカに設立したNPOを通して、現地の大学と

直接交渉し、「英語×スポーツ産業」(アトラクタ)など、語学教育のみにとどまらないその大学が立地する地域の特性に応じた留学プログラムを提供しています。その結果、大学改革支援・学位授与機構の大学機関別選択評価「教育の国際化の状況」の審査を受け、最高の評価を得ることができました。

ランキングが低い分野は、大学の課題になるわけですが、気を付けたいのは、全指標を高めようとすると、結果的に特色が薄まる恐れがあることです。ですから、ランキングの活用は、あくまでもその大学の使命に応じて行うべきでしょう。大学の理想とする大学像の実現のため、中にはあえて重視

しない指標もあります。他は低くてもここは高いという特色が明確な大学をめざします。改革の実行にあたっては、組織やマネジメントのあり方が非常に重要です。一番大切なのは、なぜそれをやるのか、基準となる価値観を全学に共有すること。これが浸透すれば、各現場での課題にどう取り組むか、各自で判断できるようにになります。

そこで、事務組織を法人に一元化すると同時に、大学全体の意思決定と各学群の方向性をすり合わせる工夫を行いました。また、2019年にビジネス・マネジメント学群、2020年に芸術文化学群を新キャンパスに移転させ、各学群の学びの特色に合ったキャンパスの拠点化を計画しています。学群の独自性を確保しながら、大学全体のブランドイメージを高める努力も続けていくつもりです。

ミッションに従って
重視する指標を選択

取材・文/ 仲谷宏 撮影/坂井公秋